

和泉市立総合医療センター

自然と緑があふれ、災害に強い市民に愛される病院

建物概要

- 所在地：大阪府和泉市和気町4丁目
- 建築主：和泉市
- 設計者：清水建設株式会社
関西支店一級建築士事務所
- 用途：病院
- 敷地面積：21,153.98㎡
- 建築面積：5,643.07㎡
- 延べ面積：31,814.96㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上8階/地下1階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値2.6
- 重点評価：CO₂削減3.9/省エネ対策4.0
みどり・ヒートアイランド対策3.0



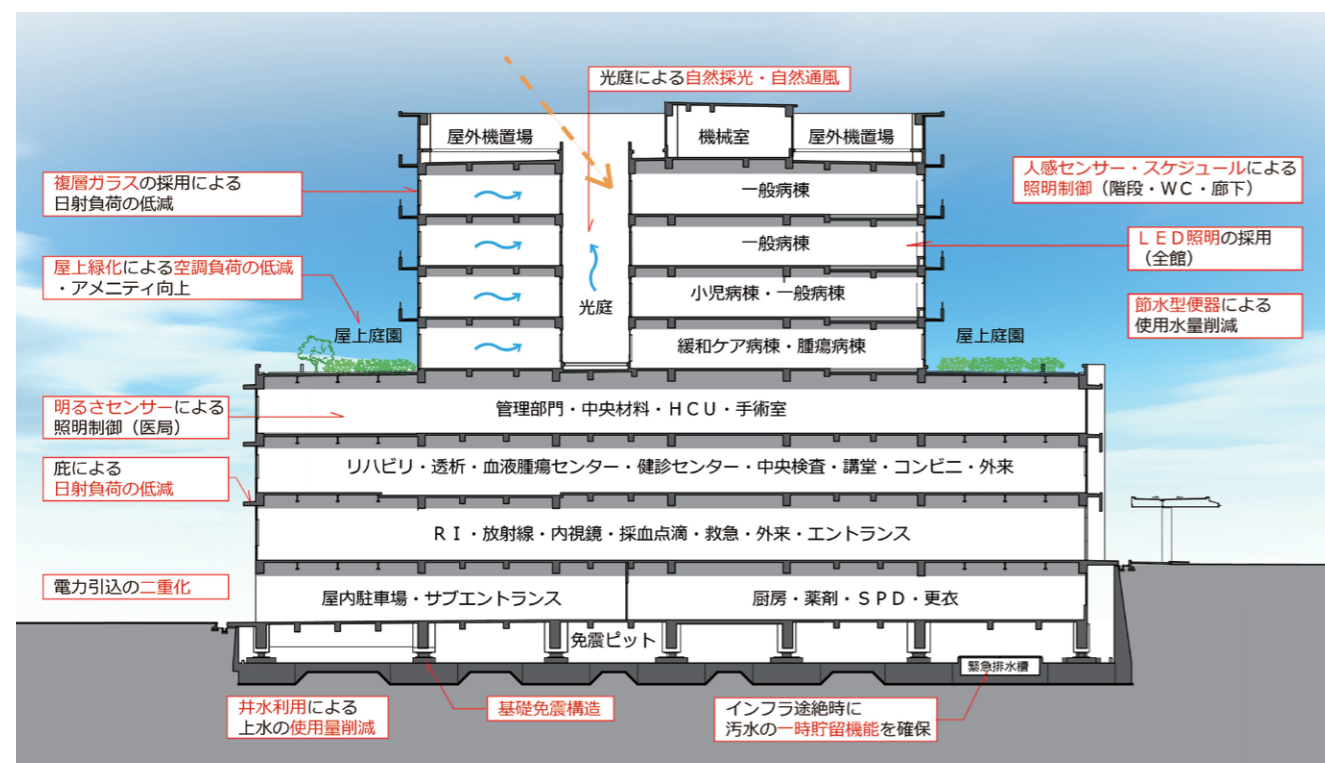
【立地、周辺環境】

立地は大阪府南西部、和泉市の市役所や警察署等の市の行政・公共関連施設に近接したエリアである。当該敷地は北側が横尾川、西側が横尾川公園（病院移転事業と一体整備）に隣接し、自然と緑が豊かな周辺環境となっている。

【総合的なコンセプト】

和泉市立総合医療センターは泉州北部地域の中核病院として地域医療を提供してきましたが、既存病院の老朽化と敷地の狭隘により新築移転を行い、救急医療・高度専門医療・災害医療の充実を図りました。「自然と緑があふれ、災害に強い市民に愛される病院」を総合的なコンセプトとし、大規模災害時でも医療行為を受けられる安心感を与え、自然と緑が豊かで環境配慮の手法を取り込んだ、地域を身近に感じる療養環境が、自然治癒力を高めることを目指しました。

建物断面構成図

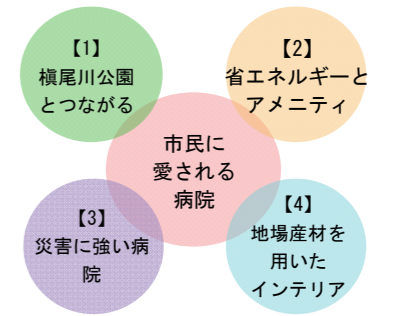


環境配慮事項とねらい

市民に愛される病院

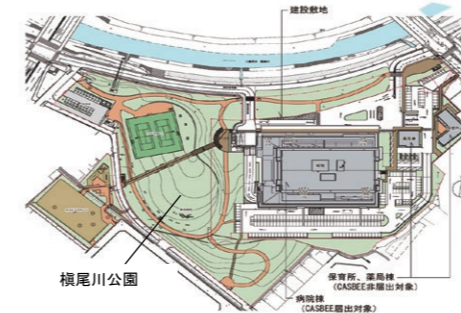
和泉市立総合医療センターの移転事業に伴う下記の病院としての特色・価値の向上と同時に省エネルギーの実現に取り組み、自然と緑が豊かで地域を身近に感じる療養環境が自然治癒力を高め、市民に愛される病院となることを目指しました。

- ①横尾川公園との一体整備であることを活かした配置・外構計画
- ②大阪府がん診療拠点病院としての療養環境・医療水準の向上
- ③大規模災害発生時にも拠点となって医療行為を継続して提供できる施設環境づくり



【1】横尾川公園とつながる

- ・隣接する横尾川公園と一体感のある外構計画
⇒緑があふれ自然に癒される療養環境を提供するとともにゆとりを持ったロータリースペースを確保
- ・敷地の中央に建物を配置し、病棟階をセットバック
⇒適切な院内空間ボリュームとしながらも近隣への圧迫感を低減しつつ、病院として必要な視認性を確保



【1】外構計画図



【1】近隣へ圧迫感を与えない建物ボリューム



【1】全景写真（外構計画）

【2】省エネルギーとアメニティの両立

- ・直達日射を遮蔽する庇・バルコニー
⇒熱負荷を低減し、空調エネルギーを削減
- ・病棟から出られない患者のための屋上緑化・散策路
⇒熱負荷・空調負荷の低減とともに潤いのある屋外療養環境を提供
- ・複層ガラスを全館に採用
⇒空調負荷を低減し、快適な室内環境を確保
- ・LED照明を全館に採用
⇒消費電力削減と長寿命ランプによるランプ交換作業軽減
- ・共用部における照明の明るさ・スケジュール制御
⇒消費電力を低減



【2】水平庇とバルコニーが外観のモチーフとなるとともに熱負荷を低減



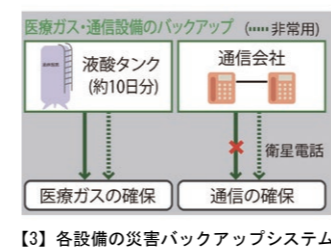
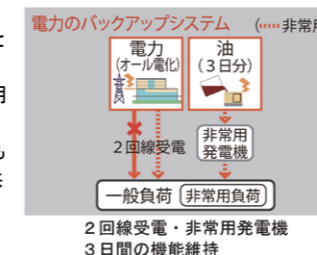
【2】緑にふれられる屋上庭園



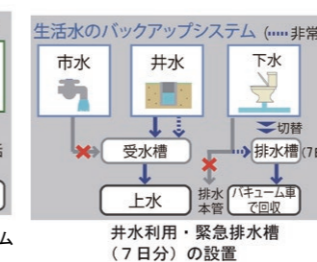
【2】スケジュール制御された共用部照明

【3】災害に強い病院

- ・基礎免震構造
⇒大規模地震から人命と医療機能を守る
- ・高圧2回線受電・非常用発電機・緊急排水槽
⇒インフラ途絶時でも医療行為を継続して提供
- ・井水利用
⇒上水の使用量を削減し、災害時も給水可能



【3】各設備の災害バックアップシステム

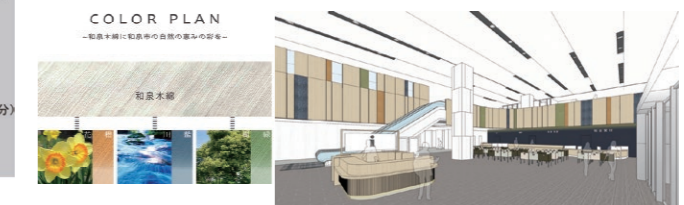


【4】地場産材を用いたインテリア

- ・「いずもく（木材）」「I pear」（和泉真珠）「和泉木綿」
⇒インテリアの要所に用いて患者にぬくもりと癒しを与える
- ・「スイセンの橙」「横尾川の藍」「横尾川公園の緑」
⇒外来エリアを地域になじみの深い自然の彩で色分けすることで、院内空間に分かりやすさとアクセントを付加する



【4】地域を身近に感じるインテリア



【4】エントランス、待合